

# 国立大学法人琉球大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

琉球大学は、真理の探究、地域・国際社会への貢献、平和・共生の追求を基本理念とし、アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点大学を大学像とするとともに、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材の養成を目標としている。第2期中期目標期間においては、熱帯・亜熱帯島嶼の地域特性に根ざした世界水準の教育研究拠点形成や豊かな教養と自己実現力を有し、総合的な判断力を備えた人材の養成等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「学び直し」と「学びの高度化」による人材育成に全学を挙げて取り組む「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業の実施のほか、長崎県松浦市に「琉球大学水中文化遺産研究施設」を開設し、海底遺跡出土資料の保存処理や分析を行うこととするなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （機能強化に向けた取組状況）

医学研究科医科学専攻に「環境長寿医科学コース」を設置するとともに、生涯教育課程（新課程）の廃止と教職大学院の設置に向けて検討し、教育学部・教育研究科の機能強化（改組）と全学的な教員養成機能の方向性について提言を取りまとめている。また、沖縄県内の高等教育機関、行政、企業、経済団体の関係者を構成員とした、「沖縄産学官協働人材育成円卓会議」を琉球大学のイニシアティブの下に設立し、地域社会が抱える「人財」育成上の課題について意見交換を行う場を設定している。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### （1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 事務局長制の導入のほか、学長直轄の事務組織として「企画評価戦略室」を新設するなど、学長のビジョンをより機動的に具現化する事務支援体制を整備している。
- ハラスメント学外相談窓口を24時間対応とするなどの充実を図り、ハラスメントのない教育・研究・労働環境の整備を進めている。

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## **(2) 財務内容の改善に関する目標**

- ①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、  
③資産の運用管理の改善

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 沖縄県や独立行政法人国際協力機構との連携を深めたことにより、「健康実践モデル実証事業」や「サンゴ礁島嶼系における気候変動による危機とその対策」等の受託研究等の受入れ増加につながり、外部資金比率は法人化以降、最も高い 4.9%（対前年度比 0.9 ポイント増）、受入額は 17 億 3,975 万円となっている。
- 学内ウェブサイトを活用し、78 件の設備リユース情報提供を行ったほか、共同利用設備の利活用方法等に関する講習会を 12 回開催（420 名参加）した結果、リユース実績 43 件、共同利用設備の延べ利用回数 4,406 回（対前年度比 31.5 %増）となっている。

### **【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

（理由） 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## **(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

- ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

### **【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

（理由） 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

## **(4) その他業務運営に関する重要目標**

- ①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③情報セキュリティ、④法令遵守

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組が求められる。
- 複合機で読み取った学生の個人情報漏えい事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

**【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

## II. 教育研究等の質の向上の状況

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 法文学部教員が鎌倉時代の元寇沈船を発見した鷹島神崎遺跡が所在する長崎県松浦市が所有する鷹島公民館及び鷹島埋蔵文化センターに「琉球大学水中文化遺産研究施設」を開設し、海底遺跡出土資料の保存処理や分析を行うこととしている。
- 「ちゅら島の未来を創る知の津梁（かけ橋）」事業の取組として、琉球大学サテライトキャンパスを那覇市、宮古島市、石垣市に設置し、サテライト教育システムの導入によるICT環境の整備を行い、「学び直し充実強化プログラム」の開発を進めたほか、新たに琉大コミュニティキャンパス事業本部を立ち上げ、全学的に課題解決に取り組む事業推進体制を整備している。
- 沖縄県内の高等教育機関、行政、企業、経済団体の関係者を構成員とした、「沖縄産学官協働人材育成円卓会議」を琉球大学のイニシアティブの下に設立し、グローバル人材育成、インターンシップの実施、日本人学生の海外留学の推進について議論を行っている。
- 高校卒業後の進路イメージが描きにくいという離島固有の教育課題の克服に向け、県内離島出身者の学生が、宮古島、石垣島、久米島において、中学生・高校生及び保護者を対象とした交流会や進路相談会を実施（参加者 668名）したほか、同地域において、小中高校生を対象とした特別企画「琉大塾」を開催し、学習指導及び体験活動等を通して児童・生徒との交流を図っている。

### 共同利用・共同研究拠点関係

- 熱帯生物圏研究センターでは、熱帯感染症研究において、化学及血清療法研究所、国立国際医療研究センター、京都薬科大学等と共同で研究を実施する「沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業」において中核的役割を果たしつつ、国際医療貢献に向けたアジア地域での研究ネットワーク基盤を構築し、組換え型ワクチンの開発に成功するなどの成果を上げている。また、共同利用・共同研究拠点である長崎大学熱帯医学研究所と共同し、同研究所のベトナム拠点でマラリアを始めとする熱帯感染症を予防するワクチンの開発研究を実施し、原著論文5編、国内外の学術集会で18報の研究成果を発表するなど、拠点間連携においても成果を上げている。

## **附属病院関係**

### **(教育・研究面)**

- 沖縄県地域医療再生計画事業で設置した「おきなわクリニカルシミュレーションセンター（OCSC）」を活用し、学内外の医療系学生、初期研修医及び県内医療従事者の実践力向上支援のためのシミュレーション教育を実施している。本センターでは、沖縄県で採用されたすべての臨床研修医を対象にしたトレーニングを行っており、平成25年度は、1万4,884名が手技訓練や救急・災害訓練、指導者養成プログラム、学生の講義等として利用している。

### **(診療面)**

- 高度専門医療の提供等による沖縄県における完結型医療の実現と手術に対する患者の負担軽減の実績として、沖縄県内で唯一認定された「体内植え込み型補助人工心臓」手術の実施施設として2例の手術や、全国で2例目となる「妊娠中の広汎子宮頸部摘出」手術等を実施している。これら先進的な治療を支えるため、ハイブリッド手術室及び術中MRIを導入し、高度、低侵襲、安全を兼ね備えた手術環境を整備している。

### **(運営面)**

- 病院長のリーダーシップに基づく管理運営体制の強化のため、副病院長及び病院長補佐の人数と役割を見直し、病院の運営方針を審議・決定する機関として、「病院戦略的経営企画会議」を新設している。